

# 社会の中の美術

■と き：2000年2月26日(土)・3月4日(土)・11日(土)午後2時より

■ところ：宮城県美術館 アート・ホール

芸術作品は作者の創造力の賜物です。

それゆえ、しばしば芸術家は孤高で、

社会とは全く関わりなく創作を行っているように思われます。

しかし、我々がよく知っている画家や彫刻家たちも

取り巻く社会の中で生まれ、

歴史の中に位置づけられてきました。

現在は美術館に飾られている作品も、

社会背景とあわせて見たとき、

あらためてその息づかいを感じるものが

できるのではないのでしょうか。



・第1回・  
2/26(土)

## ルネサンス美術と社会 — ミケランジェロを中心に

森 雅彦 (宮城学院女子大学教授)

ジョット、ブルネレスキ、レオナルドなど多くの巨匠を輩出し、ルネサンス芸術の中心地であったフィレンツェ。その知的で優雅な気質も、政治や社会風土と無関係ではありません。今回は盛期ルネサンスの天才ミケランジェロを中心に、共和主義体制から公国体制へと移行するフィレンツェと美術家たちの関連を、社会史の視点から紹介します。

・第2回・  
3/4(土)

## 19世紀フランス — 「近代絵画の父 マネ」を生んだ社会

稲賀 繁美 (国際日本文化センター助教)

現在では、多くの人が19世紀フランス美術といえば印象派を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、当時の正統はアカデミーでした。この価値観の転倒はどうして起ったのか。「近代絵画の父」と呼ばれ、その象徴的存在であるマネの評価の、歴史的社会的形成過程の再検討をとおして、近代美術について考えます。

・第3回・  
3/11(土)

## 若き平福百穂と明治社会

庄司 淳一 (当館主任研究員)

江戸時代以来の社会制度が崩壊して近代の地平が開かれたとき、日本画家はいかに迷い、いかに進路を定めたか。東北を代表する画家の一人である、平福百穂の青年期の活動に焦点をあててこの問題を考えます。明治社会の現実を果敢に画題に取り上げるといふ、その先鋭な作画活動についても、あわせて紹介します。

## 募 集 要 項

■定員／各回とも60名

■受講料／無料

■申し込み方法／電話または美術館受付カウンターでお申し込みください。

定員になりしだい、締め切らせていただきます。

■申し込み・問い合わせ先／宮城県美術館 〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 TEL022-221-2111